> トップメッセージ

企業の「価値」と果たすべき「2つの責任」

日本のCSR（企業の社会的責任）元年と言われた平成15年から5年が経ちました。当社が経営戦略としてCSRの取り組みを開始したのもこの年ですから、当社は日本のCSRと同じ歩みを進めてきたと言えます。

私たちがCSRを開始した当初から強く意識してきた言葉は、「価値」です。近年、不祥事を引き起こし、それまで築き上げてきた信用を一夜にして失う会社が相次いでいます。言うまでもなく、企業が法律や規則を守るのは、文字通り社会に対する基本的な責任を果たすことです。しかしそれと同時に、自らの価値を毀損させないためにも最低限必要なことです。

他方、企業は健全な成長を持続させることによって、その価値を高めていくことが求められています。私たちが、CSRをコンプライアンス（法令遵守）にとどまらない取り組みと位置付けるのは、それが住友信託銀行の価値を守るだけではなく、成長の糧となり価値を高める源になると考えているからにほかなりません。

平成16年に初めて発行した「CSRレポート2004」では、このような価値についての考え方と社会的責任との関係を整理し、コンプライアンスなど当社の価値を守る取り組みを「必ず果たさなければならない責任」として、また、CSRビジネスの推進など価値の向上を目指す取り組みを「より積極的に果たすべき責任」とそれぞれ位置付けました。このような基本的な認識は、今でも全く変わっていません。

「より積極的に果たすべき責任」の意味

CSRビジネスの推進などを通じて向上させる価値は、当社のみならず、お客様の価値の向上につながるものでなくてはなりません。さらに、当社を取り巻くさまざまなステークホル

ダー（利害関係者）の価値に対する配慮も必要です。そして、それを突き詰めていけば社会全体の価値の向上を図る取り組みになります。配慮すべき価値の範囲が広がれば時間もコストもかかり、実現の難易度も増していきますが、そのような困難を乗り越えてチャレンジすることこそが「より積極的に果たすべき責任」の意味だと考えています。

一例をあげれば、地球温暖化問題への対応として政府が提唱している「低炭素社会」の実現には、膨大なエネルギー消費を前提とした現在の価値観の根本的な転換が求められます。金融機関であれば、省エネルギーや新エネルギーの普及促進を妨げているものは何かを分析し、さまざまなステークホルダーが経済的な恩恵を受ける仕組みづくりに貢献し、そこにお金という血液を流し込むことに力を注ぐべきだと考えます。決して簡単なことではありませんが、それにチャレンジすることが私たちに求められている「責任」であると考えています。

▌環境問題における社会的責任を果たすために

これらの観点から、当社は環境マネジメントシステムを構築し、経営として環境問題に取り組んでいく姿勢を明確にしました。当社自身の省エネ・省資源は「必ず果たさなければならない責任」であり、環境金融事業の推進は「より積極的に果たすべき責任」となります。特に後者については、環境（エコ）の問題に対し信託銀行（トラスト）の機能を活用し解決（ソリューション）に貢献するという趣旨から「エコ・トラステューション」と命名し、取り組みを加速させています。

また、先に触れた地球温暖化問題への対応は、金融機関にも強く求められてきています。そこで、私たちは「地球温暖化問題対応基本ポリシー」を策定し、このテーマにより本格的に取り組んでいくことにしました。新しい省エネスキームの構築、不動産の環境付加価値を可視化させ民生部門の省エネ意識を高める取り組み、排出権信託の開発などに加え、国や東京都などが力を入れている太陽エネルギーの利用拡大に関しては、社内横断的な「ソーラー・ファイナンス・プロジェクト」チームを組成し、その普及を金融面から支援していきたいと考えています。

▌生物多様性問題に対する取り組みを開始

さらに、私たちは、「生物多様性問題対応基本ポリシー」を策定し、地球温暖化に匹敵すると言われている生物多様性問題への取り組みを開始しました。生物多様性の問題は、一般的にあまり知られていませんが、乱開発や外来種の侵入、温暖化の影響などにより世界で1年間に4万種の生物が絶滅していると言われ、状況は深刻です。経済的にも人類に多大な損失をもたらす可能性があります。

当社は、平成20年5月にドイツのボンで開催された生物多様性条約第9回締約国会議に参加し、「ビジネスと生物多様性イニシアティブ」のリーダーシップ宣言に世界の33社とともに署名しました。この問題に対するビジネス面からのアプローチは国際的にも始まったばかりです。私たちは、文字通り世界のリーダーとなる気概で、このテーマに取り組んでいきたいと考えています。

日本のCSRとともに歩む当社のCSRは6年目に入りました。「2つの責任」を果たしながら企業価値を追求する活動の原点に立ち、私たちは、より良い社会の実現に貢献し、ステークホルダーの皆様からの期待に応えることができる企業であり続けたいと考えています。

平成20年9月

取締役会長
高橋 温

取締役副会長
幡部 高昭

取締役社長
常陰 均